

# Informatica Secure@Source

## メリット

- 個人データと機密データの保護とモニタリングにより、データ主導のデジタルトランスフォーメーションを促進し、プライバシーおよびコンプライアンスに関する取り組みをサポート
- すべてのデータプラットフォームとタイプへの可視性を高め、今日の複雑なハイブリッド環境に必要なサポートを提供
- 個人データや機密データのリスクを継続的に分析し、すべての業務機能、地理、部門を通じて、リソースおよび投資を優先付け
- AI主導の検出機能により、リスクの高い異常なデータ利用を明らかにする
- 機密データに関するインテリジェンスを使用した自動オーケストレーションと自動保護により、プライバシーとセキュリティに関するリスクを軽減

## 個人データと機密データの探索、分類、改善、監視

Informatica® Secure@Source®は、企業組織全体の個人データと機密データのリスクを明らかにし、その改善をサポートします。人工知能（AI）と機械学習を活用することで実行可能データの探索と分類、リスク評価、挙動分析、自動保護のすべてを単一のソリューションで実現するとともに、クラウド、オンプレミス、ビッグデータストア、リレーショナルシステム、メインフレームシステムの構造化／非構造化両方のデータをサポートしています。

Secure@Sourceは、データ保護およびデータプライバシーへの投資、ポリシー、プログラムの優先付けに役立ちます。

- 社内の機密性の高い構造化／非構造化データをどこまで把握できているのかを確認する**：経営陣および担当者は、データの分類、探索、蔓延状態の分析、ユーザーアクセス、アクティビティの相関により、企業全体の個人データおよび機密データをグローバルな視点で捉えることができます。
- リスクを継続的に監視する**：自社のニーズに合わせてカスタマイズできる複数の要因に基づいてデータのリスクと軽減措置を追跡し、要件に沿って最もリスクの高い領域を特定します。
- 予期しない状況を明らかにする**：機密データの脅威となるリスクの高い状況や潜在的な異常行動に対し、継続的な相互関連付け、基準設定、分析、アラートを行うことにより、アナリティクスを活用して疑わしいデータアクセスや不正なデータアクセスを検出します。
- リスクの軽減措置をとる**：データセキュリティ管理のオーケストレーションを自動化することで、保存中／使用中のデータを保護し、不正アクセスを防止して、機密データを匿名化／偽名化します。リスクシミュレーターは、導入前にデータ制御の影響を把握するのに役立ちます。

## 主な機能

### 機密データの特定と分類

- 企業全体の機密データや個人データのリスクを特定、分類、分析します。このデータには、メインフレームなどの従来型リレーショナルデータベースの構造化データ、HDFSおよびAmazon S3上の半構造化データ（CSV、XML、JSON）、CIFSおよびNFS上の非構造化データ、SharePointの従来型構造化データストアのデータが含まれます。
- ダッシュボードとドリルダウンにより機密データを完全に可視化し、部門、アプリケーション、ユーザー、データストレージタイプなどの機能上および組織上の情報を明確にします。
- 社内外およびパートナー／顧客企業における蔓延状態の追跡やインタラクティブな可視化により、データの移動を完全に把握します。

## インフォマティカについて

デジタルトランスフォーメーションによって我々の期待値が変化しています。より良いサービスを、素早く、便利に、低コストで利用したいという期待が高まっているのです。企業も状況に応じて変化する必要があります。そしてそのヒントは「データ」にあります。

エンタープライズ向けクラウドデータ管理で世界をリードするインフォマティカは、俊敏性を高め、新たな成長機会を実現するだけでなく、新たなイノベーションを生み出すことさえ可能にする将来への洞察を提供します。インフォマティカは、あらゆるデータを徹底的に重視し、企業の成功に必要なとされる汎用性を提供します。

インフォマティカは、企業がこれからのインテリジェントな破壊的イノベーションを推進できるよう、当社が提供するあらゆるサービスを通じてデータの力を継続的に引き出すことを支援します。



図1. Secure@Sourceはダッシュボード（左）とリスク軽減措置シミュレーション（右）により、機密データを360度可視化します。

### 法規制へのコンプライアンスを徹底

- データの機密性、量、保護状況、蔓延状況、場所、ユーザーの活動などのカスタマイズ可能な要因に基づくリスクスコアリングにより、プライバシーデータ保護の各種法規へのコンプライアンスを促進するとともに継続的に評価します。
- データドメインの組み合わせを適用して、ポリシーや法規制に沿ったGDPR、PII、PHI、PCIのリスクを定義します。
- 自動改善機能およびユーザー/データのモニタリングによりコンプライアンスを強制的に適用します。

### 機密データを保護

- 重要なデータ保護の優先度を特定します。
- Informatica Dynamic Data MaskingやPersistent Data Maskingに加え、Hortonworks Ranger、Cloudera Sentry、暗号化などのサードパーティの保護機能を統合して利用する自動改善機能により、機密データを保護します。
- カスタムスクリプト、メール通知、システムログメッセージ、ServiceNowチケットとの統合。これらのアクションを、セキュリティポリシーの違反時に実行するか、または潜在的なリスクが検出された場合に手動で実行するように設定します。
- モニタリングを通じ、ユーザーの行動、データアクセス、データ移動が発生した場合にアラートを発信します。

詳細は、[Secure@Sourceの製品ページ](#)をご覧ください。

